

会 議 録

会議の名称	戸田市都市再生協議会（第3回）
開催日時	令和7年2月4日（火）午後7時00分 ～ 午後8時25分
開催場所	戸田市役所 5階 大会議室C
出席者氏名 （委員）	岡田 智秀（会長）、溝上 西二、藤田 安志、入船 優太、畠 繁明、 細谷 功一、船津 宗和（代理：川口 祐太）、大蔵 裕介、渡邊 裕介、 森田 匡俊、中沢 英明、渡辺 大助、長谷川 昌之、岡安 敦志、 重松 浩之、村井 芳巳、内藤 裕一
欠席者氏名 （委員）	荒井 歩（副会長）
事務局	【戸田市】 早川 昌彦、山碕 康之、今泉 良太、宇田 将人、久保 恵、 野上 洋史、茂原 洋輝、高木 博之 【株式会社 日本総合研究所】 大野木 洋輔、山下 翔平、高谷 健人
内 容	・ 社会実験の実施報告について ・ 北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョンの最終案について ・ 今後のスケジュールについて
会議結果	別紙「会議の経過」のとおり
会議の経過	別紙「会議の経過」のとおり
会議資料	【資料1】 : 戸田市ウォーカブル推進業務 社会実験実施報告 【資料2－1】 : 北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョン （最終案） 【資料2－2】 : 将来ビジョン成案化までのスケジュール
議事録確定	令和7年3月13日 都市再生協議会 会長 岡田 智秀

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<u>1. 開会</u> (開会挨拶) (資料及び議題の確認) (事務局から会長へ進行を交代)
会 長	<u>2. 社会実験の実施報告について</u> それでは「次第2 社会実験の実施報告」について、事務局より説明いただく。
事務局	(資料1に基づき、事務局より説明)
会 長	収支について、本社会実験で発生した50万円程度の赤字の削減が、今後継続的に活動が続けていく上での課題となる。2月8日(土)に開催するまちづくりラボ準備会にてメンバーの方々と議論する内容でもあるが、現段階で今後の収支の改善策はあるか。
事務局	まず収入はイベントの内容に左右されるため、今後イベントを開催する際は、まちづくりラボのメンバーと収入を得られるイベントの在り方を議論しながら進めていく。支出については、備品の調達に係る経費が多くを占めていた。購入備品には高価なものは少なかったが、数や種類が多く総額が大きくなった。また、高額な備品はレンタルにしたが、これも支出の大きな割合を占めた。 今後は、社会実験等を通じ、ベンチといったストリートファニチャーや照明などの日常使いの中で滞在性や賑わいを生み出せるような設備を公共空間の整備の際に設け、その設備をイベント時にも有効活用することで経費を抑えられる仕組みをつくりたい。
会 長	レンタル品と購入した備品それぞれで、金額・数量として大きな割合を占めたものは何か。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	レンタル品では、テントやベンチ、ステージ周辺の機材の支出額が大きかった。購入した備品では、多数の参加者を見込んでアルコール消毒液などの消耗品を多数用意したことや、アート展示、絵馬の企画で用いた布や台紙等の備品も数量が多く、合計した結果高額となった。
会 長	今回の社会実験では想定されていた予算と大きな乖離が無かったことを踏まえ、次年度以降は設備投資と並行して備品についても引き続き議論を重ねていく方向性が妥当だと推察する。 また、まちづくりラボの民側の活動に対しては、国土交通省の官民連携まちなか再生推進事業の補助金を活用して活動資金にしていく方法もある。
委 員	当日は風が強くテントを設営できないなど想定外の事態も発生したが、メンバーが臨機応変に対応できた点が良かった。また笹目川秋フェスタが中止となったなかで、イベントを開催できたことが良かった。 ただし、今回の社会実験の内容と笹目川秋フェスタの内容との違いが不明瞭であるという課題は残った。イベントの開催が前提ではないが、今後同様の企画を実施するのであれば、開催時期・場所などイベントとして笹目川秋フェスタと重複しないものを検討する必要がある。
委 員	まちづくりラボの今後の在り方について、現状市とは対等な関係で意見交換を行えており、今後もこの関係性を続けていくことが適切と考えているが、まちづくりラボの制度上の位置づけに不安が残る。 現状では、補助金の申請ができる団体ではないため、今後まちづくりラボが自走していくには、補助金の申請ができる団体となるための手続き等が必要である。これらの視点も踏まえて継続して進めたい。
会 長	一般的に国の支援を得るには、法人格等が要件となるケースが多い。他都市の民間組織の事例を参照しつつ、北戸田における最適な形態について、次年度以降、市と連携して分析等を実施していきたいと思う。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	社会実験と同日開催された「まちウォーク２０２４」に参加していたが、社会実験との同日開催はどのような経緯で始まったのか。
委員	「まちウォーク２０２４」の運営メンバーから、社会実験と同日にイベントを開催するため、連携ができないかと提案があった。
委員	「まちウォーク２０２４」とボール公園や笹目川プロムナードの企画との一体感を実感しづらかった。今後イベントを開催するのであれば、タイムスケジュールなどを工夫し、各企画のつながりを感じられることが望ましい。また、収入についても地元企業に宣伝し、広告の掲載や協賛金の募集により収入を増加することも一案である。
会長	千葉県八千代市では、タウン誌を年間に数回発行し、企業からの広告収入を得て活用している。北戸田のデザイナーとも連携しながら進めることも有効である。
委員	金銭の面では、キッチンカーの売上げは順調であった。しかし、予算については今回計上されていない人件費が発生している。本社会実験では、市の職員とまちづくりラボ準備会のメンバーを合わせて約５０人程度の人員で運営を行ったが、今後、この人数をボランティアのみで賄うことは困難である。パイプ椅子などの備品も市から借りているため、総額で８０万程度追加でかかるのではないかと。市の協力を得ずに開催できるように、企業からの協賛金、キッチンカーやワークショップの出店料なども含めて総合的に検討する必要がある。
会長	当面は都市再生協議会とまちづくりラボのパートナーシップが継続するため、行政からの支援は受けられるが、藤田委員の指摘のとおり、支援が受けられる期間の中で収支の在り方を総合的に検討する必要がある。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員	良かった点として、全ての出店者が最後まで参加しており、皆で盛り上げようという意識を感じられた点が挙げられる。 ただし、本年度は、普段北戸田で活動している出店者が少なかったため、今後はより地元からの出店者を募ることが重要である。
会長	各委員の指摘のとおり、企画ごとにテーマがあり多世代が楽しめる内容であった。また、複数の会場を繋ぎエリア全体で面的に開催したことで、ウォーカブルのコンセプトを体現することができた。さらに官民学が連携して、参加者間の人的なネットワークを強化できた。これらの点は、今後に繋がる成果と言える。
会長	<u>3. 議題</u> <u>・北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョンの最終案について</u> 続いて、「次第3 議題」に移る。 議題「北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョンの最終案」について、事務局より説明いただく。
事務局	(資料2－1、資料2－2に基づき、事務局より説明)
会長	本事業は、国土交通省のウォーカブル推進事業にあたるが、次年度以降、未定のものも含めて補助金を取得する予定はあるか。
事務局	来年度の補助対象事業は2件を想定している。1つは高架脇道路での社会実験の実施にかかる費用である。もう1つは、まちづくり区画整理室が社会実験の結果を踏まえて実施する、道路設計に関する費用である。
委員	道路設計について、防犯の観点で、薄暗い場所では犯罪やいたずら行為が発生しやすいため、街路灯を多めに設置し、夜間でも明るい歩行空間を確保することを要望する。ただし川沿いであるため、明るさを強めすぎてしまう

発言者	議題・発言内容・決定事項
	と虫が集まり、近隣住民に迷惑をかける可能性もある。他都市の事例等を参考に進めてもらいたい。
会 長	虫の問題については検討が必要だが、明るい空間は人を惹きつけるため、賑わいの創出に資すると推察する。
委 員	基盤整備について２点提案がある。１点目には、資料２－１のp. ２０で、北戸田駅前と２号公園の間の高架下の空間に、国から補助金をいただくという観点でも、駅前と公園を結ぶ導線として移動空間・滞在空間を示す矢印を入れた方が良いのではないかな。 ２点目には、資料２－１のp. ２７に２号公園の記載がないが、今後、国からの補助金を活用し２号公園の整備を進めていくうえで、将来ビジョンにも記載があると、より進めやすくなる。２号公園の整備に関する記載の方針はいかがかな。
事務局	１点目の高架下の空間については、移動・滞在空間としてのみならず、賑わい創出の空間として認識している。地域住民からも環境空間の資質を生かした賑わいづくりの要望を受けており、他の移動・滞在空間と区別するためあえて矢印を記載していない。また、高架下の空間は東日本旅客鉄道の私有地であり、活用方法が異なるので誤解を与えないような表記としている。 ２点目については、「２号公園の整備」という記載を資料に追記させていただく。
委 員	高架脇で整備する道路は、市道と考えていたが相違ないかな。
事務局	整備対象は主に市道を想定しているが、環境空間と一体で賑わいづくりを進めたいと考えているので環境空間内の緑地部分も検討範囲としていきたい。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委 員	本ビジョンの作成と並行して、心地よい空間づくりを進めるうえでは、県が管理する笹目川の沿岸の雑草の手入れなども必要である。
委 員	笹目川においては、平成26年度頃までに、水辺に繋がる緩やかな斜面や階段を整備した。雑草の管理については、近年の高温多雨な状況で夏場は草刈りが追いつかない状況にあるが、県が年に2度、夏場と笹目川秋フェスタの直前に草刈りを実施している。
委 員	斜面をコンクリートで固めるなど、護岸工事を実施する可能性はないか。
委 員	笹目川は侵食の可能性も低く、県も自然と一体的な河川環境づくりを目指しているため、現状では護岸工事の対象とはなっていない。
会 長	草刈りについては、地域のボランティアが行うことは可能か。
委 員	地域のボランティアで実施することは問題ない。しかし、自治会などの地域の負担が大きくなり、取組が進まない状況である。
会 長	他の地域では、刈った草の処理費用が問題になりやすいが、埼玉県での対応はいかがか。
委 員	県が実施する草刈りでは、県の処理施設に運搬して処分している。地域の方が刈った草も処理施設まで持参できるのであれば処理は可能である。
会 長	例えば、小中学校の地域イベントなどと連携すれば実現の可能性はある。
委 員	水辺に下りられる場所が不足していると感じる。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	大階段 1 箇所のほか、小さい階段が数か所あるが、普段草が生えているので降りても川がのぞめない。適切な維持管理をしていきたいが草刈りの回数が限られていることからご理解いただきたい。
委員長	笹目川は数年前に県の水辺再生事業により、階段等が整備されたと記憶している。これらの整備事業は今後も笹目川で実施される可能性はあるのか。
委員長	他の市町村からも新規整備の要望が出ており、笹目川を優先して再度実施することは現実的には難しい。
委員長	整備の際に事前のヒアリングが十分に反映されず、地域住民の想定より傾斜が急になったという話を聞いている。今後同様の事業があれば、より地域の声を反映して整備されることを望む。
委員長	笹目川プロムナード周辺にある橋の 2 か所に、管理されていない花壇がある。最も目立つ場所にあるが、花の手入れなどは行わないのか。
委員長	県の方では花壇に花を植える等の対応はしていない。地域の方が自発的に利用しているというのが実情ではないかと推察する。
委員長	笹目川沿いの別エリアでは、自治会で花壇を管理していると聞いている。
会長	届け出があれば、市民が県所管の区域にある花壇を管理することは可能か。
委員長	届け出先が不明なため、届け出先は判明次第、県から市に回答する。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員	おそらく、戸田市水と緑の公社における「緑のボランティア事業」として、周辺のマンションにお住まいの方々が活動しているのではないかと思います。市道上の植栽帯の中にある花壇で、実際にボランティア活動している場所もある。
会長	近年は、行政任せにせず、地域住民主体で管理を行う動きも活発化している。笹目川への思いを持った住民が多いため、機運が高まれば県や市と協議し調整を進めてはいかがか。
会長	以上の議論を踏まえ、「北戸田駅周辺まちなかウォークブル将来ビジョンの最終案」に対して、本都市再生協議会としては承認することで異議ないか。 (出席の全委員からの異議なしをもって、本協議会として「北戸田駅周辺まちなかウォークブル将来ビジョン（最終案）」を承認。) (会長から事務局に進行を交代)
事務局	<u>4. 閉会</u> 委員の皆様におかれましては、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございました。 以上をもちまして、第3回戸田市都市再生協議会を閉会します。本日はどうもありがとうございました。 以上